

話題のひろば

<II>

□大丸神戸店で開かれた  
**東山魁夷**  
第二期  
**唐招提寺障壁画展**



写真上／襖絵を説明をする東山画伯・あいさつされる東山画伯

写真下／左・犬養孝、NHK滝川神戸放送局長さんと、右は東山ご夫妻を囲んで。

東山魁夷画伯の水墨による中国山水、第二期唐招提寺障壁画・襖42面「黄山曉雲」「揚州薰風」「桂林月宵」が完成して、四月二十四日～五月六日迄、大丸神戸店で原画展が開かれた。

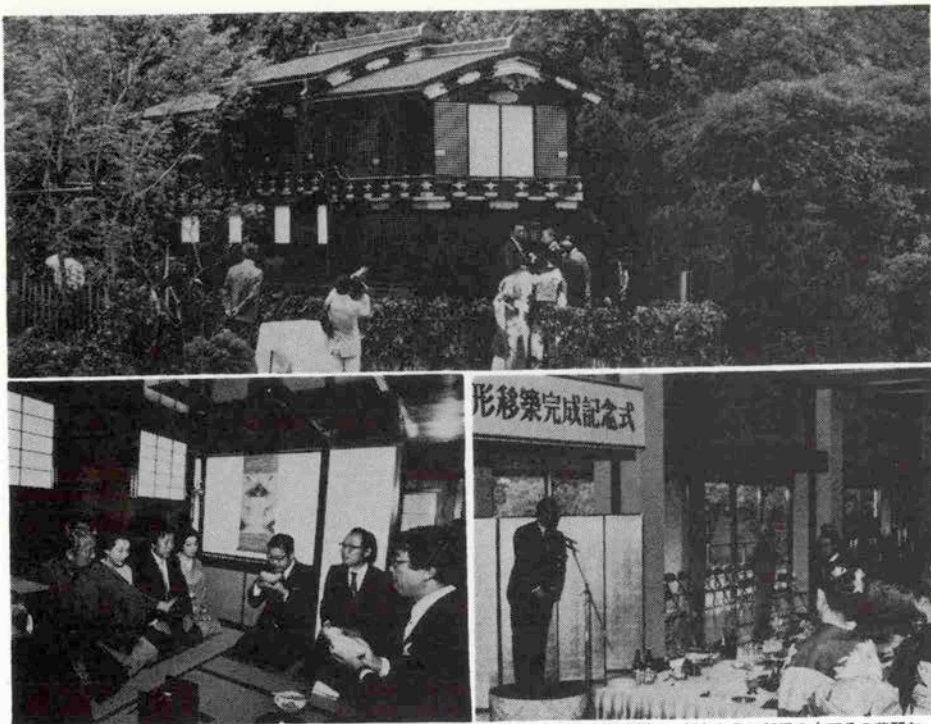
それは、ころよい柳をそよがせる五月の風であった。心なぐさめる山であり河であり月であったこの襖絵は鑑真和尚のお厨子が安置されているお部屋に掛けられるため、東山画伯が精魂込めて描きあげられている。中国に里帰りをする鑑真和尚が、再び御影堂に帰られ、この揚州の自然が、どれほど鑑真和尚をお慰めることであろうか。何よりもこの襖絵からは、風や、水や、おぼろな月の音が、楽となって聞こえてくる。東山画伯の和上への敬慕なくしては生れなかったし、鑑真和尚の閉じられた両眼のお姿を安置してこそ生きる襖絵だ。四月二十四日は朝十時にオープン。故郷神戸の東山ファンが続々詰めかけた。午後六時から東山画伯ご夫妻をお迎えしてのオープンニングパーティを開催。画伯は「まさか中国へ私自身が行けると思っていなかったことが実現して、鑑真和尚の故郷を中国の人の尽力で観て仕上げましたが、和上の苦労とくらべれば微力なものです」と。真摯な暖かいお人柄に心からの拍手が贈られた。

話題のひろば

<Ⅲ>

□「船屋形」修復オープン

## 現代に甦る江戸 期の絢爛さ



(写真上) 木部はすべて木肌の見える春慶塗と重厚な黒漆塗とに塗りわけられた船屋形は、折りからの新緑の中でその華麗な姿を見せている。(写真下・右) 相楽園会館での記念式であいさつをする牛尾社長。(左) 船屋形の内でお茶会も催された。

「旧ハツサム住宅」「旧小寺家厩舎」がある相楽園に、もう一つ貴重な文化財「船屋形」が加わったが、これは昭和二八年に国の重要文化財に指定されたもので、元姫路藩主の御座船で由緒あるもの  
慶安二年（一六四九）から寛文七年（一六六七）の間に造られたものと推定されるが、その後、一七世紀末から明治までの約一七〇年の間に七、八回の造り替えが行われ、昭和一四年に故牛尾健治氏の所有となり、同五三年、同氏の子息牛尾吉朗氏（現ウシオ工業社長）によって神戸市へ寄贈されるまで、牛尾邸の茶室として使われて同年一二月から総工費六千万円で相楽園への移築、復元が進められていて、このほど完成した。

「船屋形」は長さ八・八一五米巾二・五三米で切り妻造りの一重二層建てで、春慶塗が施され、江戸期の豪勢な様をしのばせている  
五月九日午前十時三十分から相楽園において完成記念式が行われ約百人が出席、寄贈者の牛尾氏、井尻昌一神戸市助役、森脇文夫神戸市会副議長によって除幕され、井尻助役から牛尾氏に感謝状が贈られた。同日午後五時三十分からオリエンタルホテルで「船屋形寄贈記念パーティ」が催され、故牛尾健治氏の知人が出席、リラックスした楽しい会宴となった。

話題のひろば

<IV>

## 男の装いと 愉しみを演出

□ゼントハウスがオープン



(上左) 東京バイビイングソサエティのメンバーによるバグパイプ演奏 (上右) テープカットをする中内ダイエー社長 (左)  
(下左) 英国風パブ<HUB> (下右) ゼントハウス全景。シックなレンガ色の建物は「男の殿堂」というにふさわしい。

四月十九日(土) 午前十時、三宮に「男の殿堂」ゼントハウスがオープンした。

この日の朝、タータンチェックの民族衣装をまとった東京バイビイングソサエティの音楽隊がバグパイプを演奏しながら三宮を華やかにパレード、英国ムードを盛りあげた後、午前十時に中内切ダイエー社長によってテープカットが行われ、開店を待ち兼ねた客がどつと店内に繰り込んだ。

同店はメンズダイエーが装いも改たに新装オープンしたもので、「世界の名品をはじめ、さまざまな価値ある品々で、充実のひとつを演出する男の館」と唱うだけあって、ハイグレードな一流品が地下一階から地上七階までの各フロアに個性豊かに展開されている。また、ゼントハウスのもう一つの「目玉」は一階にある英国風パブ「HUB」だ。

これは、気軽に飲んで語りあえるコミュニケーションの場にしたという中内社長の考えでつくられた店で、社長自身、時間がある限りパブに顔を出し、若者と色々話をしたいと意気込みを見せている。値段もウイスキーのストリート、オンザロック各一八〇円、珈琲、紅茶各一五〇円と安く、夜は他フロア閉店後も十一時まで営業をしている。

話題のひろば

<V>

# □ファッション都市神戸にふさわしく ウインザー 25周年盛大に



☆



写真上はケーキカットの山田夫妻／山田六郎社長を囲んで<左> 下ははなやかな女性客とスタッフらに囲まれた山田夫妻

「マイ・ウェイ」の弾き語りのピアノと唄が静かに流れて「ウインザー25周年」の花の輪にライトがあたり。四月二十三日オリエンタルホテル大ホールで二五〇人のお得意先やファッション関係の人々を招いて華やかに「ウインザー25周年記念パーティー」が開かれた。

大牧暁子さんの司会に、懐かしい記念スライドが紹介されて、センター街のウインザーが、アルフィアルファキュービック、モガ、などさらに北野町界隈にのびてゆく姿に拍手が贈られる。続いて勤続年数の高い店員さん達の表彰を。そして、山田六郎社長と、モデリストとしても内助の功高い富紗子夫人がケーキカット。タキシードとスパンの美しい黒いイブニングのお二人は「マイ・ウェイ」の曲にふさわしい晴れの日だ。

神戸市の経済局次長柏原さん、兵庫県の出納長佐谷さん、サンフレールの社長藤井幸さんらのスピーチ。神戸市都市計画局長笹山さんの音頭で乾杯をした後、サントノール・ハウスバンドのさわやかな演奏、森哲也さんの唄が会場を盛りあげる。

そして、25周年にふさわしいゲーム、世界25カ国めぐりの福引きなど楽しく、和気合々とした雰囲気。最後はサンバの曲となって華麗なパーティーは幕となった。

## 全国のタウン誌15社が連帯

北海道「ふるさと十勝」 青森「タウンライフ十和田」 東京「週刊きちょうじ」  
横浜「浜っ子」 静岡「豆州かわら版」 長野「月刊松本情報」  
奈良「マイ奈良」 金沢「おあしす」 兵庫「月刊神戸っ子」 高松「ナイスタウン」  
高知「暮らしの便利帖」 宮崎「宮崎春秋」 沖縄「青い海」

● 地域文化のネットワーク

# 月刊 旅行アサヒ



全国有名書店で好評発売中!!

定価780円 (送料160円)  
年間購読料——9,360円

## ● 地域の新鮮な情報を満載

5・6月合併号

- カラー＝江戸情趣 (横山宗一郎)
- 巻頭インタビュー＝五木寛之
- 対談＝旅三昧 (岡本太郎 VS 早川良雄)
- 挑戦の旅＝テケ三世号世界を行く (松村賢治)
- 世界の街角から＝サンフランシスコ (安藤忠雄)
- 日本発掘＝瀬戸内に生を享けて (奈良本辰也)
- 旅とファッション＝水野正夫 ● 大伽藍巡礼＝法隆寺
- 表紙 / 石阪春生 デザイン / 早川良雄

### 7月号予告

対談 / 淀川長治 VS 池波正太郎ほか  
巻頭随想 / 笹沢左保 (旅人になること) ほか

● お申し込み、お問合せは——〒650 神戸市生田区東町113の1 大神ビル7F 月刊 神戸っ子内旅行アサヒ係 ☎078-331-2246

## ●小山ノコちゃん乃里子の

# 華麗なる食べある記

△33▽ 広 東 料 理 別館牡丹園／御影本店

△34▽ ポリネシア料理 フィッツシャマンズ・ポオート



## □別館牡丹園／御影本店

★うす味の、純粋な広東料理

去年の暮から近所づきあいをしている御影の、別館牡丹園。初めて来た時は満席で入れなかった。二度目はロビーで二十分程待った。日曜の昼下りという時間帯もまぶしかったのだろうが、なんとなく私の頭の中に、あそこはいつ行っても満員という感じがつきまとって、しかもひとり身には家族連れでにぎわう店内はちよっぱりの佻しささえも感じてしまったものだった。

でももう大丈夫。コック長の、香港から来たばかりという麦さん（バクさんと読みます）と知り合ったから、コンチワアーって入っていけそう。とても陽気なおじさんで、麻雀が何よりの趣味というから気が合いそう。でも、日本語がまだ駄目ってのが困っちゃう。

そのバクさんの御自慢の料理を出してもらった。ただし、あらかじめお断りしておかなくちゃあ。今日の料理、お店に行つてメニューの端から端まで捜しても載っていないのです。でも、絶対のおすすめ品だから、ノコちゃん食べたのお願いしますって、ちなみに言ってみ

て下さい。ノコって誰です？ なんていったらぶんなくってかまいません。責任は神戸っ子にあります。なんて冗談はさておき、最初に出されたスーパのおいしかったこと。卵白がゼリー状というか、プリン風というか、カニの卵、カニ、ハムのごま切れ、インサイがビリリツときいて、大きなお皿いっぱいでもペロリと食べてしまいうそう。「蟹黄鶏粒乳酪」と正式に書けばこうなんだけど、卵とカニのスーパで通じるらしい。

次の車海老と京イモの料理。これがまた美味なのです。豚肉、玉ねぎ、しいたけ、竹のこ、インサイ、これらをつぶしてこねて、京イモを、これまたつぶしたものの中に入れて、カラッと揚げてある。揚げたてのあつあつをふうふうと口の中に放り込む。これは「京イモ、ノ」と一声どなろう。

そして最後は、キリンの料理。といっても別にキリンを食べるわけじゃあない。お皿の上から見た感じがキリンの背中に似ている、ナマコ料理。ナマコの上にひき肉、しいたけ、竹のこのミンチ状のものをのせて、煮ますね、それを皿にのつけ、竹のこ、しいたけを横にそえて、アスパラを背骨みたいに並べてみます。横には、草原の感じ、パセリなどをあしらってみましよう。

別館牡丹園／御影本店



▲手前左がナマコ料理。右は車エビと京イモ。向こうが卵とカニのスープ

いつもニコニコの妻（バク）さんと、店長の陳さん



普通、中華料理を食べに行くと、すぐ皿にしょう油と酢とカラシでタレなんか作って、なんでもそれにつけて食べちゃうが、ここではそんなことはしないこと。それとバクさん、まだ全部のメニューを公開してないみたいだから、メニューに載ってない料理、と、どんどん注文してみよう。

五目焼そば／600円 酢豚／900円 牛肉とビーマンの糸切り炒め／1200円 ファミリーコースA(2名様)／5800円 B(3名様)／8800円 C(5・6名様)／18000円 宴会コース／40000円 より

東港区御影山手1丁目 御影ガーデンシティ2F 電話21-6666  
午前11時～午後9時半（ラストオーダー午後9時） 無休  
さんちかタウン店／電話391-11930 貿易センター店／電話251-0138 西明石店／電話928-4013 須磨大丸店／電話791-7115

## □フィッシュヤマンズ・ポオート

★海が目の前、ロマンチックな船旅気分

神戸の街は、来年三月のポオートビア81に向けて、徐々に、しかも確実に動き出している。何年振りかで訪れたフィッシュヤマンズ・ポオート（といっても、昔一度コーヒーを飲み立ち寄っただけ……）の窓ぎわに坐っただけでそれがわかる。美しく、鮮やかにぬり変えられた大橋のむこうに、新しい一つの街が出現しつつある。今はまだ無彩色の街が、やがて見事な色彩の花を咲かせることだろう、うーむ……なあって、市長みたいな感慨にひたっていた鼻先を、伊勢エビの身が焼かれてたった、なんともいえない香ばしい、おいしいそうな匂いがくすぐった。いつのまにか、丸テーブルの上にはフィッシュヤマンズ・ポオート御自慢の数々の料理の花ざかり。

なんといっても圧巻なのが、海賊焼きといわれる、いわゆる、海の幸の石焼き。ポリネシア料理である。とれとれの魚などを大きな葉に包んで、焼けた砂や石をまぶす、というか上からかぶせるというか、そうやってむしろ焼きにして食べる。ルアウというのかな、そんなものを

# フィッシュマンズ・ポオート



▲上が名物“海賊焼”。下左からチヨビノ、オバカバカ、仔牛のオレンジ煮

「このままずっと海外へ出かけて行きたいなという気分になりますでしょ」と話す長田正道さん

タヒチの海辺で食べた思い出がなつかしく心をよぎる。ここでは、大きな鉄板に那智黒の石を焼いて、その上には、伊勢エビ、キス、アワビ、ホタテ貝などが押しあいへしあいで焼かれているのである。

ああ、サザエがあった。車エビさんも忘れていてゴメンナサイ。季節によってハマグリや鮎が登場する。白い塩に松葉の緑、エビの手足のきれいな赤。

その熱気で、さっきまでコチコチだった凍結酒が、ややシャーベット状になって来た。このお酒は本当においしい。灘の生一本、原酒を瞬間に凍らせたもの、それがだんだん解けていく。あまりとけすぎないうちにぐいと飲む。この凍結酒と、特製ボン酢（たかの瓜のびりりとした感じがたまらない）につけた海賊焼きのよく合うこと。

オバカバカという料理がある。椰子の殻半分を使って、鯛のグラタン。チヨビノというのは、トマトベースのチヨビノソースで味付けした海の幸の煮込み料理。まあいや、ヴィンヤーズのイタリア版ってとこかな。これもいい味だった。キャブテンブラター。キャブテンクックが好んだ魚のフライである。オレンジソースのステーキ。柔らかそうで、よっぽど手を出そうと思ったけど、もういけません。

窓のすぐ傍まで来ているような、波に夕陽がきらめいて、最高にロマンチックな雰囲気。解体船の部品がここに置かれているから、船に乗っているような気にもなる。

本当にいかにも神戸らしいレストラン。今度は素敵なひとと二人でこう……とひそかに心に誓う。人に言ったら、多分笑われるだろうから。

仔牛のオレンジ煮／1700円 オバカバカ／2800円 海賊焼／4300円 キャブテンブラター／2500円 チヨビノ／3300円 ラウラブラター／3300円（いずれもコースの値段）

生田区新港町第4突堤ポートターミナルビル内 電話33110301 午後5時～9時 月曜休み（祝日及び観光船入港時は翌日に振替）

●神戸を福祉の町に△78▽

# 老人福祉にかける

## 西浦ファミリー

橋本

明△社団法人「家庭養護促進協会」事務局長▽

あと二〇年で二十一世紀がやってくる。そして近い将来に私たちが確実に直面しなければならない現実の一つに高齢化社会があるといわれている。あと数十年で65才以上の老人が全人口の二〇％を越えるとか。道ですれちがう5人に一人が老人ということになる。歴史上かつて先例がないだけに、さまざまな難題が噴出してくるかもしれない。

そんな将来の社会の変化を先取りして、かどうかわからないが、神戸に私財をなげだして家族ぐるみで私設の有料老人ホームを建設した一家があると聞いてさっそく訪れてみた。

このホームは国鉄六甲道駅から西南へ徒歩8分のところにある「ホット・ファミリー西浦」で、昨年の春に完成したばかりの、大変明るくモダンな外観が人目をひく



モダンな外観のホット・ファミリー西浦

さっそく、このホームを建設した西浦庄司・ヒデ子夫妻に話をうかがった。

西浦夫妻がこのホームを建設するに至るまでのいきさはざっと三〇年前にさかのぼる。二人が結婚して間もなくの頃、近所の生活保護をうけていた老夫婦のおじいちゃん「あとをたのむ」と言い残して息を引きとった。若い二人は残されたおばあちゃんの世話をしつつ、六年後におばあちゃんが死んだ時は自分たちで葬式をした。そのあと、また身寄りのない老夫婦のお世話をし、亡くなった時はまた葬式を出した。西浦夫妻の老人との出会いはこんなところから生まれ、今でも一階の広い和室の正面には亡くなった二組の老夫婦の写真がかかっている。その後30年というものは、西浦夫妻の人生と老人とのかわり合ひはきつてもきれいなものになっている。

昭和48年からは毎月第三日曜日には市内の老人ホームはもとより、さまざまな社会福祉施設を訪れ、おみやげやお年玉を持参して困っている人たちを励まして回った。

四年前には隣家を買って、私設の老人いこいの家、老人相談所などを開設。老人の悩みやグチを聞く窓口をかってでた。長年にわたるさまざまな老人とのふれあいのなかから、西浦さんたちは今の老人たちのおかれている現状に矛盾や不満も感じ、できれば自分たちの手でお世話のできる老人ホームをつくり、お年寄りたちにも喜んでもらいたい、という夢をいつしかもつようになった。そして、喫茶店と焼肉店を経営していた跡地に、総工費約

九千万円で53年秋から有料老人ホームの建設にかかり、昨年五月に待望の夢であった「ホット・ファミリー西浦」が実現した。

このホームは鉄筋コンクリート四階建てで、一階はホール、食堂、娯楽室、浴場、調理室、事務室、二・三階は、押入、床の間、トイレ、洗面所、ベランダ付きの各六畳和室が十八室あり、上り下りはエレベーターが利用できる。四月末現在で六人が入居中。まだ部屋には余裕



一階の和室で食事をとるお年寄りたち



右より西浦知賀子、庄司、ヒデ子さん、そして孫の大輔くん

☆「ホット・ファミリー西浦」の入居資格は60歳以上（夫婦の場合は一方が60歳以上）。  
入居保証金500万円。入居費は1人1ヵ月10万円。詳しい事は下記へお問い合わせ下さい。  
神戸市灘区鳥帽子町3丁目4-21 西浦としひ会 TEL (078) 871-7645

があるので希望者は申し込める。

このホームは西浦家族あげての家族ぐるみの運営に特色がある。夫の庄司さん(55)は事務と機械管理、妻のヒデ子さん(52)は老人の話し相手になったり、ホーム全体の運営に気をくばる。長男の恒博さん(31)は調理師の腕をいかして炊事、嫁の知賀子さん(24)は看護婦の資格をもち、健康を担当、二男の秀樹さん(26)、睦美さん(25)夫婦は垂水に住んでいるが、何かの行事や手助けの必要な時は手伝いにかけてくれる。それにお手伝いさんが一人と孫の大輔ちゃん(9ヵ月)。

「建物は大きくても、ここは一つの大きな家族です」とヒデ子さんは言う。「老人がこちらのいうことをわかってくれないと私もいっしょに泣くんです。心をぶちあげないと打ちとけません。お年寄りがここに来られると三ヵ月ぐらいいはじっくりとお年寄りの話に耳を傾けます。信頼されるのはそれからです」という。こんなことができるのはやはり小さなホームの良さだろう。「私が食べたアメがおいしかったらすぐみんなにもっていっちゃうんです」とヒデ子さんは笑う。今年のお正月には地域の一人暮らしの老人をホームに招待したりもした。

訪問した日、昼食を入居中のお年寄りたちといっしょにごちそうになった。入れ物にも献立にも心くばりが感じられた。昼食後、来客の私に気をつかってか、テレビを見ている途中で席を立とうとするお年寄りにヒデ子さんは「もっとゆっくりしていいよ」と何度も声をかけた。何でも気軽に声をかけてくれ、自分の存在を認めてもらうということは老人にとって大変うれしいことにちがいない。小さな家族的なホームの良さは、それぞれの老人に対してキメの細かい心がいきとどくことである。

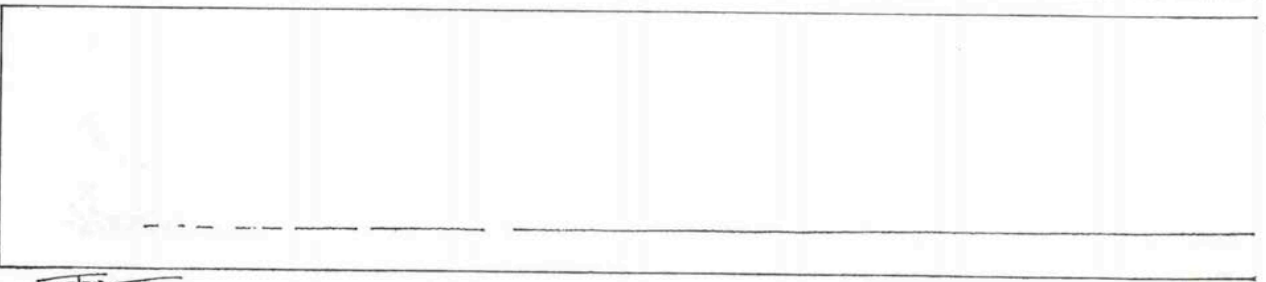
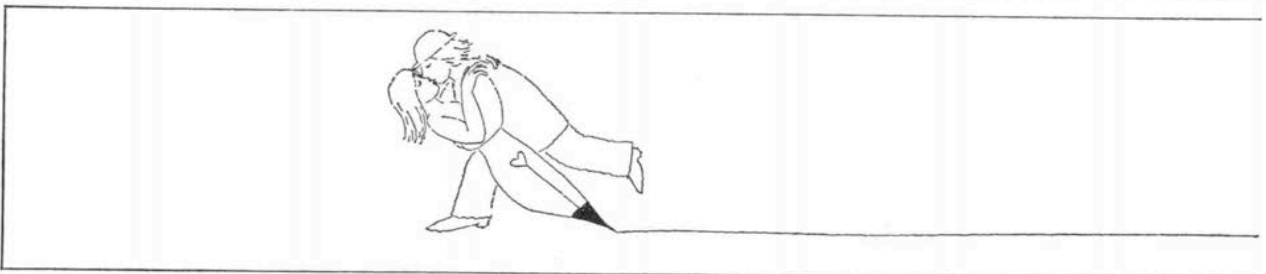
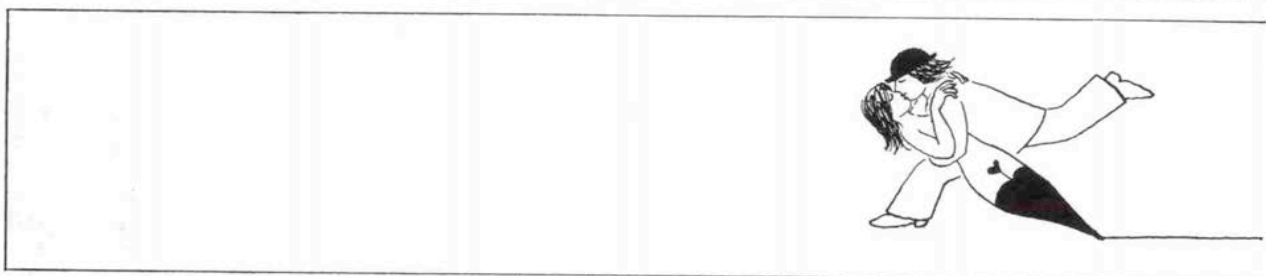
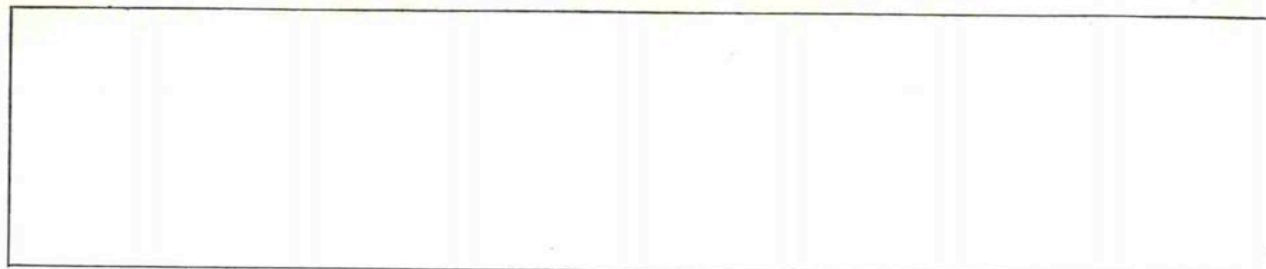
最近、東京のある超高級有料老人ホームが倒産し、話題になったが、これから老人人口が急速に増えてくると老人のかかえる問題やニードもずい分多様化し、さまざまな形態の老人ホームも増えてくるだろう。そんな時、西浦夫妻の試みも貴重な試金石となるにちがいない。

★パントマイムジュンズ・PART II

# 愛すべき隣人たち★6

岡田 淳





*[Handwritten signature]*

● 神戸元町で生まれた美味 ●

# とんかつ



神戸市生田区元町通一丁目二四  
電話〇七八三三二・〇七五五代七

とんかつ  
二つ茶碗

- ビーフ(神戸肉)かつ
- ビーフバター焼
- ロールかつ定食
- チーズかつ定食
- ヘレかつ定食
- ロースかつ定食
- 海老かつ定食
- かつどん(特製)

元町駅		
	とんかつ二つ茶碗	特
元町三丁目	元町一番街	川
		大丸

## 一流ブランド商品を 特別価格で。

- バッグ
- ネクタイ
- ベルト
- スカーフ
- 小物
- その他



世界の一流ブランド直輸入

# DJEMAL

〒650 神戸市生田区北野町4丁目87-2  
ジュマールビルディング  
(旧サッスーンアパート)

TEL (078) 231-5117

土 休 日



□第五回

# 神戸文学賞 神戸女流文学賞 作品募集

小社は昭和51年創刊15周年記念として神戸文学賞および神戸女流文学賞を創設いたしました。これを機に有為の新人に新しく道を開くとともに、西日本における文学活動の一層の発展のために微力を尽したいと願っております。過去の受賞作品は次の通りです。

第一回神戸文学賞「島之内ブルース」(田藤新Ⅱ尼崎市) 同女流文学賞「ベットの背景」(小倉弘子Ⅱ大阪市)  
第二回神戸文学賞「謎捨て」(奥野忠昭Ⅱ大阪府柏原市) 「生活」(吉峰正人Ⅱ神戸市) この回の神戸女流文学賞は該当なしで、神戸文学賞を二作が受賞。

第三回神戸文学賞「自由と正義の水たまり」(菅竜一Ⅱ奈良市) 同女流文学賞「夢の消滅」(大原由紀子Ⅱ高知市)  
第四回神戸文学賞「溶ける闇」(高木敏克Ⅱ神戸市) 同女流文学賞「影と棲む」(田口佳子Ⅱ伊丹市)

ここに第五回文学賞を公募するにあたり、多数の意欲的御投稿をお願いするとともに清らかで強力な作品の出現を期待する次第です。

## 〈募集要項〉

一、神戸文学賞は男性作品、神戸女流文学賞は女性作品とし、共に西日本在住者で応募作品は一篇に限ります。

一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限ります。

一、原稿枚数は四百字詰百枚前後。

一、原稿には住所、本名、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度の作品主題(創作主旨)をつけて下さい。

一、締切りは八月一五日(当日消印有効)

☆なお、選考は本誌が依頼した選考委員によって行います。

一、入選発表は本誌昭和五十六年新年号誌上で、同号より作品を掲載します。

一、原稿の返却、選考経過などに関する問い合わせには応じかねます。

一、入選作品の著作権は本誌に属します。

一、入選作品各一篇には副賞として賞金三十万円が贈られます。

一、原稿の送り先 お問い合わせは、神戸市生田区東町一三の一 大神ビル七階 月刊神戸っ子「神戸文学賞係」まで。  
電話〇七八一三三一―二二四六

主催／月刊神戸っ子

●神戸のファッションメーカー〈パール〉

## ブラウスが決めるお洒落

松岡 賢蔵社長にきく

神戸っ子はブラウスが好きだ。創立二十年、磯上通りにある白い八階建のブラウスメーカー「パール」の本体は、「神戸ブラウス」の清楚なイメージを受ける素敵なビル。粹より意気に惹かれるという松岡賢蔵社長にお話を伺った。



「女性ではブラウスに一番最初に目がいきます」と松岡社長（パール本社にて）

——現在のファッションについてどうお考えですか。

松岡 「文化は上から権力者が押しつけるものじゃないように、ファッションも着る人が作り上げていくものだと思うのですが、今はまだ企業より創り出されているようにですね。たとえばコーディネートを一つ取り上げてみてもまだまだ自分の趣味や主張を生かせずに売り手にたよる傾向が強いように思いますね。ブランド志向にしても同じです。人それぞれが自分の個性を発見し、自分なりのファッションをクリエイトするのが本来の姿じゃないですか。その感覚が広い意味でのファッションを動かす力なんです。若い人達に大いに期待しています」

——よりよいファッションのためにメーカーはどうすればいいとお考えですか。

松岡 「ファッションの土壌にも、政治、経済、文化というものがある。その時の社会情勢を見ながら、今、消費者が求めている物は何か、どういうターゲットを狙うかを考え、その中で最高の物を作り出すことが、企業としての責任なんですよ。」

まず市場調査を綿密に行い、消費者のニーズをしっかり把握することが必要です。そのうえで、良い素材の選定、カッティング、縫製技術の向上に努め、色・柄・デザインとも調和のとれた最高の物を、タイミングよく市場に出すことが大切ですね。また消費者のファッション意識の向上に役立つような情報の提供を行えば望ましいのですが。」

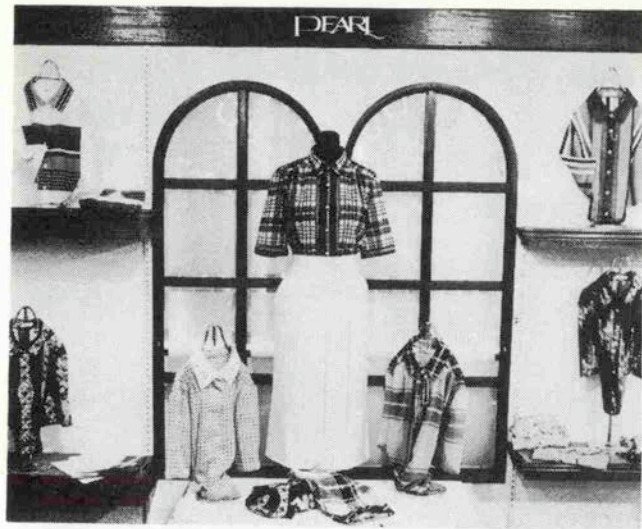
——パールのターゲットは。

松岡「物づくりの上では、十代を対象にした「ボベ」のブランド、これはレースやフリル、刺繍をあしらって、可愛らしさを表現しています。ヤングからヤングミセスを対象にした「パール」は繊細なタッチで表現したデザインブラウス。アダルト対象の「ネオ・パール」はより高度なオーダー感覚を取り入れています。現代女性を生き生きと表現する「メルアン」はキャリアアウーマンを対象としています。各ブランド毎に、よりターゲットを絞り込みながらよりよい物づくりに徹しています」

——ブラウスのお洒落についてどうお考えですか。

松岡「服をコーディネートする場合、一番最初に神経をつかわなくてはいけないのがブラウスだと思うんです。男性ならワイシャツです。どんなにいい背広を着ていてもワイシャツがヨレヨレなら落第です。同じですね、女の人でブラウスに神経を使わないのは、ファッショナブ

ネオ・パールのディスプレイ



ルといえないですよ。女性が一番最初にブラウスへ目を向けてほしいですね」

——どういうブラウスがいいブラウスでしょうか。

松岡「まず、縫製がしっかりしていて肌ざわりがよいということですね。これはブラウスだけでなく、すべての衣料にいえることですが……。特にブラウスの場合では、コーディネイトしやすいということがよいブラウスの第一条件でしょう。色、柄、デザインは着る人それぞれの好みによって選んでいただければいいと思います。あとは品位の問題ですね。デザインとかカッティングとか具体的なもののじゃなくて、そのブラウスが持っている雰囲気ブラウスが大事だと思います」

——パールのブラウスのブラウスαとは？

松岡「シンプルでデザインのなかにも新しさを感じさせて、清潔ななかにも女性のやさしさを表現しているということですね」

——さて、神戸市がファッション都市コウベといい出して八年になります。神戸のファッションはいかがでしょう。またファッション都市コウベについても。

松岡「神戸の街の人がお洒落なのは、神戸のもつ歴史や環境が大いに役立っていると思います。しかしファッション都市というになると、街がファッショナブルであるだけではだめで、経済的な裏付けが必要であり、企業だけが頑張っているのも力不足になると思うね。企業と行政が噛みあって協力していかないといけない、企業だけでは「ファッション環境」は作れないでしょう。」

——最後に、パールのブラウスを愛用している女性にアドヴァイス。どういう女性になって欲しいですか。

松岡「自分自身を素直に見つめることのできる女性になってほしいですね。そこから全ての成長が始まると思います。奥床しくて優しいだけでなく、進歩しようという前向きな姿勢も忘れないで欲しいと思います。ファッションにおいても、積極的に自分の個性を生かすお洒落を身につけて欲しいですね。」

# ●ジョイント自由広場

〔15〕

## ’80年代

# まんがの新しい波

## 村上 知彦

〔漫画評論家、漫金超編集〕



いまぼくは、関西で新しいまんが雑誌を創刊するといふ仕事に、夢中でとり組んでいる。予定よりかなり遅れたけれど、ようやく原稿も揃い、印刷に回せる段階まで来たところだから、この「神戸っ子」が出る頃にはぼくらの本も店頭に並んでいることだろう。関西でまんが雑誌が出版されるのは、たぶん十年以上ぶり。素人ばかりで始めたものだから、思いのほか難事業だった。

事の起りは昨年春。大阪のチャンネルゼロというまんが同人誌のメンバーと、大阪在住のまんが家・雑賀陽平氏の作品集を作るため、本人と会って打ち合わせから流れていった飲み屋の席だった。誰かがふと呟いた。「ああ、会社辞めたいなア」居合わせた全員が、この言葉に深く同意し、ただ辞めてブラブラしているのでは社会が許してくれそうもないから、自分たちで会社を創ってまんが雑誌を出そうよ、ということに、酔った勢いになってしまった。

とまあ出発は極めて安易なようだが、それなりの状況判断がなかったわけではない。チャンネルゼロのメンバ

ーのひとり、いしいひさいちが、ここ二、三年のうちにまたたく間に売れっこまんが家になってしまった。同人誌界でのみ、名を知られていた、高橋葉介、さべあのみ、柴門ふみ、高野文子といった作家たちが、あちこちの雑誌に作品を発表するようになった。同人誌出身ではないが、マイナー作家と思われていた大友克洋も、着実に人氣を得、各誌からひっぱりだこという状況になってきた。そして川崎ゆきお、ひさうちみちおといった、まんが専門誌「ガロ」のような地味な場所に描いていた連中が、いわゆる「三流劇画誌」に発表した作品でファンの注目を集め始めていた。相も変わらぬメジャー雑誌の中に、彼らの作品は徐々に浸透し、確実に波紋を起こしていたのだ。

読みとばし、消費するためのまんがではなく、味わうためのまんが。それでいて大衆性も娯楽性も決して切り捨ててはいないまんが。それらを集めて、同人誌でも既成商業誌でもない、新しいタイプの雑誌が作れるのではないかというのが、ぼくらの読みだった。

彼らの多くは寡作である。看護婦である高野文子、美術品の商社に勤める雑賀陽平のように他に職業を持ちながら描いているものもいる。あちこちに、ポツリポツリと発表される彼らの作品をまとめて読める場を作りたい。いしいひさいちのように神戸にとどまり、同人誌活動も続けるという作家もいる。形はメジャー雑誌でも、いま居る自分の場所を大切にしたいから、多少不便でも関西で出版したい。

タイトルは豪華に「まんがゴールドデラックス」、略称の「漫金超」というのはいしいひさいちが考えた。ぼくらが80年代のまんが状況をリードするなどと、大それたことは考えていないけれど、たぶん似たようなことが、あっちでもこっちでも起こるのがまんがの’80年代だろうと、吹田市内の小さな事務所で、ぼくらは思っている。

■さべあへのま 漫画超創刊号「I LOVE MY HOME」より



■大友克洋「ショート・ピース」奇想  
天外社刊「任侠シネマクラブ」より



■いしいひさいち 漫画超創刊号「安下宿  
共闘会議戦史・絶望的前衛の巻」より



●ジョイント情報広場  
ジョイント4Fに「イン  
ポート・ジーンズ」コー  
ナーが誕生。欧米の人気  
ブランド大集合！  
例えば、ポール・ファイオリッパ  
マッギン、テン・ブロン、ブドノ  
ン、20世紀フランス、ブドノ  
ン、イタリア、フランス、ブドノ  
ンを中心とした各国の若者たちが  
リッパにそまドレスアップと  
してはきこなしてスリッパと  
が大集合しました。スリッパと  
が特徴。

■ひさうちみさお 「ラビリンス」  
ブロンズ社刊「バースペクティヴ  
・キッド」より



5月15日創刊された  
「漫画超」(まんがゴー  
ルデン・スーパー・デラッ  
クス)の表紙。

シーニングライフ スーパー・ジョイント  
**jjoint**  
JEANING LIFE  
三喜・ジョイント  
〒660 神戸市東灘区三喜町1丁目32番地